
言葉はいらない

B J

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

言葉はいらない

【Nコード】

N1383E

【作者名】

B J

【あらすじ】

ある晴れた日の日曜・・・一組のカップルが喫茶店で彼らなりの一つの愛の育くみ方を提起してゆく物語

ある晴れた日曜の昼下がり

ファミリーストラン『ツベリクリン・パパ』で一組のカップルが
仲睦まじくテーブルを共にしていた

見つめ合い微笑み逢う二人

時折肩を揺すらせて笑い声をあげる二人

男は半笑いのまま懐に手を入れ44マグナムを取り出すと続けざま
に三発、窓際一面のガラス壁に向け発砲した

ガラスは砕け散りその割れた空洞の外からウエイターがサーカスの
火の輪をくぐる虎の如く勢いよく飛び込んできた

男はガラスの破片で額を切り流血で顔が赤く染まって足元に倒れ込
んでいるそのウエイターの耳に噛んでいたガムを詰めるとその耳に
スピーカーホーンを押し当て大音響で二人の注文をした

空を見上げれば領空侵犯したロシアのジェット機がアクロバット飛
行をしながら民家に向けてミサイルを撃ち込んでいる

轟く爆音

戦争は絶対にいけない！

男は反戦主義者だった

この爆音が彼のリベラル魂に火をつけた

彼はだんだんと腹の底から怒りがこみ上げてくるのだった

彼は怒りがこみ上げてくるとあからさま大きくなる質であった

すでに男は来たときよりも約70センチほど身長が高くなっていたのだ

鼻も120センチ長くなっていた

男はその鼻で女のバッグの中ををまさぐるとその中から一つのアコ―デオンを鼻で巻き込み取り出し、畳み一畳くらいになった大きな両耳を高速で羽ばたかせながら今はやりの『おしりかじり虫を』シャンソン風にアレンジして女の目の前で優しく奏でて見せた

男のその暖かい心遣いに感動したのだろう、女はバッグの中からオナニー用のトカレフを取りだし天井に向けランダムに発砲しながら嬉しさのあまり軽快なステップでリズムカルに店内中をスキップしただすのであった

オシャレな馬賊は毎日シャンプー！新発売！『newプリン体宮殿』であなたも召集令状！

・・なステップでリズムカルに店内中をスキップしだすのであった

団体客である山伏達の吹くホラ貝がやけにセンチメンタルだ

いつそのまま客達全員がセンチメンタル虫になればいい・・

ハーフの支配人、アムステルダムとし子（47）は流れ星にそう願った

遅い・・

注文してかれこれ3時間が過ぎようとしていた

さすがの女もふと、我に返ったのだらう、軽快なステップのスキップをはたと止めパンティの中から手榴弾を取りだし口で芯管を引き抜きざまサラダバーの上でミットを構えるドカベンめがけ大きく振りかぶり投げはなつた

それを受け取つたドカベンは粉々に砕け散り長い連載にようやく終焉の 때가訪れた

長い間ありがとうございました水島先生！

その爆発音におののいたのか戦々恐々とした表情のウェイターがようやくリヤカーをひきながらギターを弾きながら運動場に石灰の白線を引きながらリヤカーに注文の品を載せ山向こうから日に焼けてやって来た

彼の生まれ故郷はねぶた祭りで有名な青森なのにいつも彼は人から里を聞かれると必ず東イエメンと答えてきた

どのような理由で彼がそう答えていたのかは誰も知るよしもなかったのだ

以前彼の幼なじみが言っていたことだが、おそらくその彼の幼なじみである友人サミュエル幕ノ内(29)が言うにはバイアグラを屋根上から節分気取りでばらまきたいだけのことらしい

その彼が！ウェイターのモツアレーラ山下(29)が持ってきたのだ！

注文の品を積みリヤカーを引いて運んできたのだ！

今日が自分の誕生日だと言うのに！

国境を越え3時間かけて持って来たのだ！

しかも国境警備隊の銃弾をかくぐってだぞっ！

左肩を撃ち抜かれながらだぞっ！

ウエイターがひいてきたリヤカーには一台の清涼飲料水の自動販売機と一台の原付バイクが積まれていた

男はおもむろに百円銀貨をその自動販売機に入れ、次から次へと色んな清涼飲料水を出していき、瞬く間にテーブルの上は清涼飲料水の山で埋め尽くされてしまった

男は食い入るようにその清涼飲料水の山を見ながら来ている服を一枚一枚脱いでゆきやがて全裸へと変わった

男は悠然と缶の栓とペットボトルの蓋を己のペットボトルのような逸物で凛々しく開け出す

すべての品を開け尽くすと男はテーブルから7メートル離れ黙想し、深く深く深呼吸しだす

女は原付バイクの給油口を開けると啜えているホースの片方の端を給油口に突っ込みエンジンを吹かし出す

女は原チャリを走らせながらガソリンを飲む！

女はガソリンを飲みながら原チャリを走らせる！

男は黙想をやめカツ！と両目を見開くと助走をつけテーブルの上の清涼飲料水の山めがけ走り出しダイブする！

男はダイブしたテーブルの上でもんどりうち清涼飲料水の山を蹴散らしてしまう

中身が飛び散り、飛沫を上げて舞い踊る清涼飲料水君達

あたりは零れ飛び散った様々な品種がミックスされた大きな清涼飲料水の水たまりになってしまっていた

その大きな水たまりのなかでもんどりうちながら体中に付着した清涼飲料水を半笑いで白目を剥いて舐めまくる男

その周りを給油口に突っ込んだホースでガソリンを飲みながら半笑いで白目を剥いて原チャリウィリーで旋回する女

美しくも仲睦まじい二人

愛する者同士に言葉などいらぬ

この愛する者同士の二人を

オーナーのトゥーランドット川端山@Jr(53)が自慢のバグパイプを演奏しながら

包み込むような笑みを浮かべいつまでも二人を見守っていたらしい

とサミュエル幕ノ内(29)は苦虫を潰したように語っていた

== E N D ==

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1383e/>

言葉はいらない

2010年10月28日00時47分発行